

書評

(財)日本エネルギー経済研究所 エネルギー計量分析センター編

エネルギー・経済統計要覧

評者 齋藤雄志*

Takeshi Saito

エネルギー関係の統計としては、総合エネルギー統計、電気事業便覧、ガス事業便覧等がよく知られており、また広く利用されている。この「エネルギー・経済統計要覧」は、従来不足していたエネルギー統計のいくつかの部分の補い、かつエネルギー経済全般において必要な基礎統計をカバーしている。すべての統計にはそれぞれの分担分野がありさまざまな長所・短所をもっているが、エネルギー経済に関わる人々にとってはこの統計が最も便利かもしれない。

「エネルギー・経済統計要覧」は(財)日本エネルギー経済研究所エネルギー計量分析センターによって開発された新しいエネルギー統計である。平成5年度より(財)省エネルギーセンターから出版されている。

本統計はおよそつぎのような構成になっている。

I. エネルギーと経済

1. 主要経済指標
2. エネルギー需給の概要
3. 一次エネルギー供給と最終エネルギー消費
4. エネルギー価格

II. 最終需要部門別エネルギー需要

1. 産業部門
2. 家庭部門
3. 業務部門
4. 運輸部門

III. エネルギー源別需給

1. 石炭需給
2. 石油需給
3. 都市ガス・天然ガス需給
4. 電力需給
5. 新エネルギー等

IV. 世界のエネルギー・経済指標

V. 超長期統計

この統計の特徴や長所をあげるとつぎようになる。

① 一般に我々が必要とする基本的エネルギー需給統計がよく整備されている。特に需要側の統計が詳しい。本統計の中で貴重なのは家庭部門、業務部門のいわゆる民生部門の部門別エネルギー源別統計が提供されていることである。たとえば、家庭部門では冷房、暖房、給湯、厨房、動力等の部門別エネルギー統計が示されている。この種の統計はいままでほとんど公表されていなかった。もちろんこの種の統計には、その推計の難しさが指摘できるが、利用する側としては貴重なものである。また関連する統計としてエネルギー消費機器の普及状況、冷暖房度日等に関する統計も示されている。輸送部門に関しても通常必要な統計が記載されている。

② エネルギー経済に関する分析を行なう時に必要な人口、国民総生産、投資、物価、国際収支、鉱工業生産指数、粗鋼生産等の基本的経済統計が掲載されている。さらに一人当たりエネルギー消費、単位生産額当たりのエネルギー消費、炭酸ガス排出量等の各種指標がいろいろと提供されている。

③ エネルギー供給側の統計に関しては主にエネルギー源別の時系列データとして、石油、石炭、天然ガスその他に関する統計が示されている。電力関係の統計も普通ここで示されているもので十分である。

④ 本統計では、利用しやすい形で国際エネルギー統計が記載されている。国際エネルギー統計に関しては、国際連合やIEAの統計その他を利用することができるが、それらを利用しやすい形で整理することは容易でない。

⑤ 本統計にはGNP等の各種の経済指標やエネルギー生産に関する超長期統計が記載されており、これも従来一般にはあまり知られていないので大変利用価値が高い。

*専修大学経営学部教授

〒214 川崎市多摩区東三田2-1-1